



JAC Tochigi

発行元 日本山岳会栃木支部 発行元住所 〒321-1262 栃木県日光市平ヶ崎 176-4 渡邊雄二方

2012 年

4 月号【第 4・5 号】

2012(平成 24)年 4 月 1 日発行

栃木支部報

4・5 号

目次

p 1. 日下田前支部長が名誉会員に
p 2.-8. 会員投稿のページ
p 9.-16. 2010 年度の活動の足跡
p 17.-27. 2011 年度の活動の足跡
p 27. 支部会員名簿

p 28.-p29. 総会の記録
p 30.-p31. 会員からの寄稿文
p 32. 「山の日」制定にむけて
事務局より、あとがき

日下田前支部長が名誉会員に！！

2007(平成 19)年 5 月 27 日(日)の栃木支部設立以来、支部長としてお世話頂いていた日下田實顧問が、このたび、といっても 2 年前【2010(平成 22)年】の 12 月に名誉会員になられた。遅ればせながら支部会員の皆さんに改めてご紹介をする。

以前から日下田さんを名誉会員に推薦しようという方々が多く、なられるのは時間の問題であったが、会則上の手続きを踏まえてのことなので、それを一段ずつクリアしながら実現したということになる。

後述する『活動の足跡』でも触れたが、2010(平成 22)年 10 月 11 日(月)の第 5 回役員会・事業委員会においてが、支部長交代が緊急の議題として提案され、新支部長には山野井武夫副支部長が就任し、交代時期は遡って 2010(平成 22)年 10 月 1 日とすることになった。なお日下田實前支部長は、支部規約を改正した上で、支部顧問に就任することになった。なお空席の副支部長は、役員改選の次期総会まで渡邊事務局長が代行することになった。あわせて、日下田實会員を名誉会員として推薦することも了承された。そして 10 月 13 日(水)の本部における平成 22 年度第 6 回(10 月度)理事会において、10 月 1 日付で栃木支部長交代が認められた。さらに 11 月 10 日(水)の第 7 回(11 月度)理事会において、日下田實会員を評議会全員一致で名誉会員に推薦することが報告された。さらに 12 月 4 日(土)の平成 22 年度年次晩餐会において、新名誉会員として日下田實顧問が紹介された。

会報『山』の 2010(平成 22)年 12 月号から年次晩餐会の記事を紹介しよう。

平成 22 年度年次晩餐会は 12 月 4 日、東京・品川の品川プリンスホテル・アネックスタワーで開催した。……467 人の会員が集い、なごやかに歓談した。……

新名誉会員が紹介された。日下田實会員である。日下田会員は、日本山岳会第三次マナスル登山隊の隊員として 1956 年、マナスルの世界初登頂に成功し、その後、評議員などを務めた。1930 年、栃木県益子町生まれ。早稲田大学山岳部時代は、剣岳、穂高岳などの積雪期登山を成功させるなど当時の学生登山界をリードする登山家として活躍された。尾上会長が名誉会員章を手渡された。日下田名誉会員は「第二次・第三次マナスル遠征隊員に選ばれ、偶然にも頂上までいった。栃木支部を立ち上げたことも、名誉会員に推薦された理由かな」などと話された。



2010(平成 22)年 11 月 27 日(土)の第 4 回秋季講演会での山野井新支部長(左)、日下田前支部長(右)

1 沖允人会員のヒマラヤ遠征報告

○すでに『栃木支部報』第3号でもお知らせしたように、本支部の沖允人会員が2010(平成22)年6月下旬から7月下旬にかけて、インド北西部のラダック地方のパンゴン山脈に遠征した。本支部はこの遠征隊を後援したところである。沖会員からその記録を提供していただいたので紹介しよう。

インド北西部・ラダック地方 パンゴン山脈バルマ・カンリ峰初登頂 とカンジュ・カンリ峰試登 沖允人(オキマツ)

●はじめに

日本山岳会栃木支部で後援をいただいた2010年・中京山岳会ヒマラヤ登山隊の当初の目的は、パンゴン山脈の双子峰、マリ峰(6585m, 6560m)に登頂することであった。しかし、地図と地形情報の不足、地元ガイドの誤認識、地形の類似、GPSと詳細地形図と衛星画像のパンゴン山脈地域への持込禁止などが原因で、山頂へ続く谷を誤り、マリ山群の東南約10kmのカンジュ・カンリ山群に向かってしまった。登山を終了し、帰国して撮影した写真記録や衛星画像を詳細に比較検討するまで、その誤りに気づかなかった。検討の結果、初登頂し、仮にバルマ・カンリ峰(Barma Kangri)と命名したピークは、カンジュ・カンリ峰の東約500mにある地図上の無名峰(c.6500m)だと推定できた。カンジュ・カンリ主峰(6725m)はパンゴン山脈最高峰で、インド隊が1983年初登頂したといわれ、その後、1987年、1995年、2001年にインド隊が登頂している。

幸か不幸かマリ山群の主峰は今のところ未踏のままに残っていると思われる。何時の日か山頂に立つ人があることを期待している。

●パンゴン山脈西面のベースキャンプ地へ

2010年6月27日、成田発、ニューデリー経由・空路、ジャム・アンド・カシミール州、ラダック地区の主都レーに6月29日に到着した。レーの標高は約3700mである。パンゴン山脈はインド・中国の国境地帯にあるため、登山ビザに加えてインナーライ

ンナーライン・パーミット(禁止区域入域許可)の取得が必須なので、レーでその最終手続きをする。隊長・沖允人(75歳・中京山岳会・日本山岳会栃木支部)、登攀隊長・西嶋鍊太郎(67歳・白山フウロ山岳会・日本山岳会石川支部)、リエゾンオフィサー・ガンディ・ソラブ(55歳)、クライミングガイド・クムチョック・ティネス(31歳)、ハイポーター(3名)、コック(1名)、コック助手(1名)、合計9名であった。

7月1日、車2台でレーを出発、チャン・ラ(5360m)、タンツェ(3795m)経由・パルマ(Parma)の集落の先の川原に7月2日にベースキャンプ(4800m)を建設。7月5日、カンジュ・カンリ(Kangju Kangri)山群西面、タストラ・ルンパ(Tastra Lungpa)谷中流域の岩と雪の高原台地に第1キャンプ(5400m)を建設。7月9日、タストラ・ルンパ谷源流域の索漠としたモレインの岩の上に第2キャンプ(6000m)を建設した。

●バルマ・カンリ初登頂

7月12日、第2キャンプからパンゴン山脈主稜線のコル(c.6200m)に登り、南東に伸びる岩と雪の主稜線を辿り、主稜線上の無名峰(c.6500m)に西嶋・クライミングガイド・ハイポーターのベンバ・ノルブ(50歳)が初登頂した。頂上直下の雪壁に約200mのロープをフィックスした。この無名峰はBC近くの集落の名前からバルマ・カンリ(Barma Kangri)(間の岳の意)と仮称することにし、リエゾンオフィサーの了承を得、IMF(インド登山財団)に届けた。

7月17日、前記の無名峰(c.6500m)に、沖・クライミングガイド・ハイポーターのベンバ・ノルブが第2キャンプから第2登した。フィックスロープを撤収、第2キャンプも撤収し、同日、第1キャンプ経由で、ベースキャンプに下った。

●カンジュ・カンリ峰試登

7月20日、タストラ・ルンパとケウルン・ルンパ(Keunglung Lungpa)谷源流域のカンジュ・カンリ峰南面の第2キャンプ西方の一段高いモレイン上に第3キャンプ(6100m)を建設し、7月21日、西嶋・クライミングガイド・ハイポーターのペンバ・ノルブは第3キャンプからカンジュ・カンリ峰に登頂すべく頂稜リッジの6420m地点に到達した。しかし、そこからカンジュ・カンリ主峰への頂稜リッジは、斧で

断ったように切れていて前進は困難で危険極まりないので登攀を中止した。また、別ルートからカンジュ・カンリ主峰に登るには、メンバー・登攀具・時間などが不足していると判断し、第3キャンプに登ってきた沖隊長も含めて協議し、残念ながら全面撤収を決定した。7月22日、第3キャンプ、第1キャンプを撤収し、ベースキャンプに下山し、7月24日にベースキャンプを撤収し、タンツェ、チャン・ラを經由し、レーに帰着した。



写真1:カンジュ氷河と
ベースキャンプから第3
キャンプまでのルート



写真2: バルマ・カンリ峰
(c.6500m)から無名氷河と
パンゴン湖

概念図：パンゴン山脈・マリ山群とカンジュ・カンリ山群

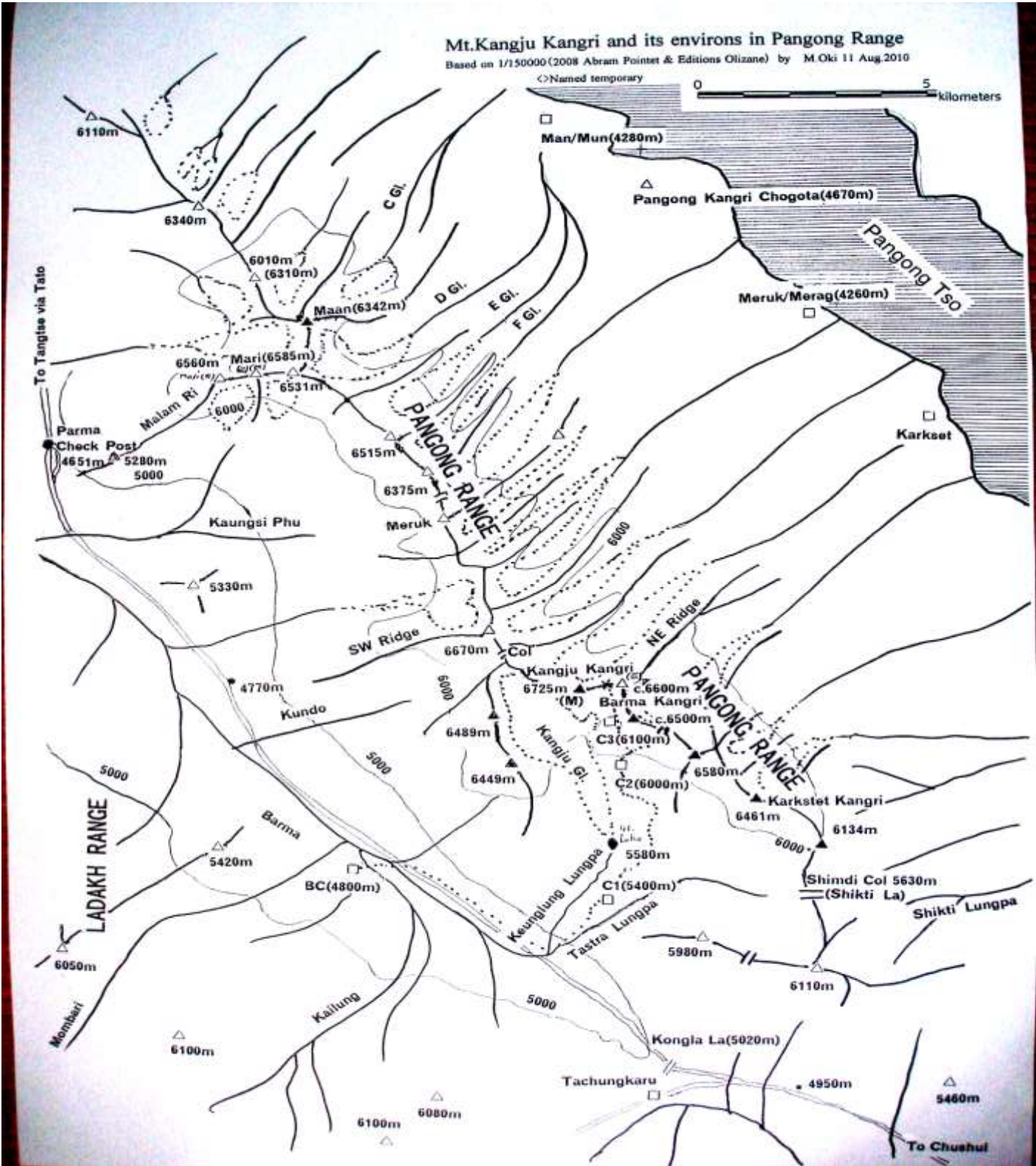




写真3:カンジュ・カンリ主峰
(6725m)(左端)と東峰(中央)、
バルマ・カンリ峰(c.6500m)(右
端後方)

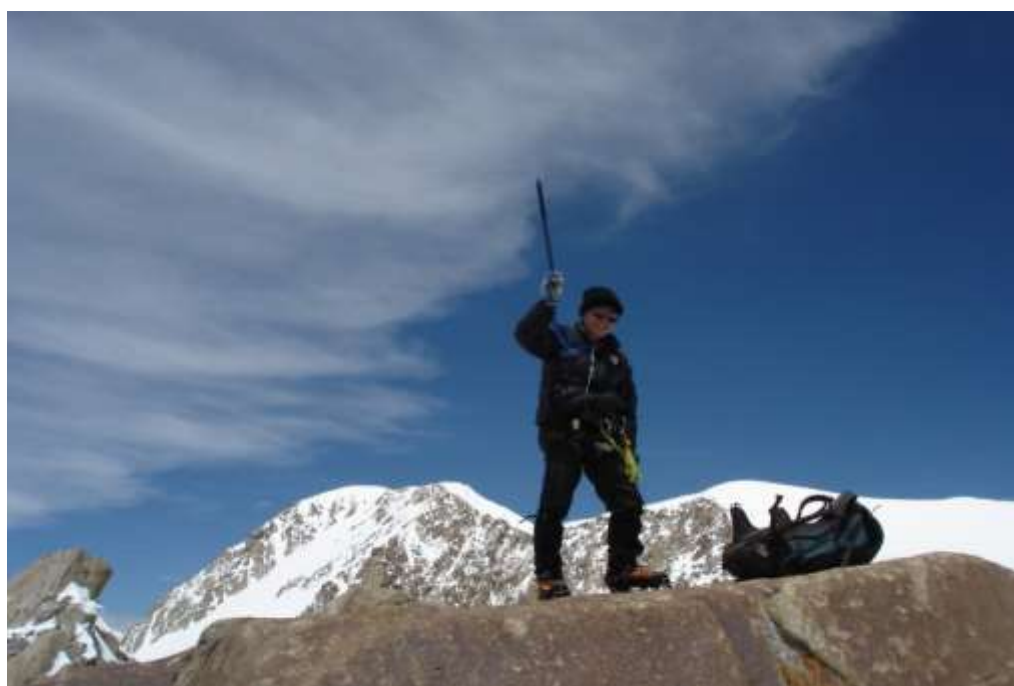


写真4: バルマ・カンリ峰の
頂上にて、後方はカンジ
ュ・カンリ主峰(6725m)



写真5: カンジュ・カンリ
東峰を南西面から登る



写真7: カンジュ・カンリ峰
の東面を登る



写真8: カンジュ・カンリ峰
と第3キャンプ



写真6: カンジュ・カンリ峰
右岸の6000mの無名峰

2 米国転勤の前田文彦会員からのオハイオ通信

○前田文彦・洋子ご夫妻がこの4月からアメリカへ転勤となるため、後述の『活動の足跡』に記した通り、2011(平成23)年4月に、春山山行兼前田会員の激励会を催した。その後前田会員から、転勤地の名をとって『オハイオ通信』が届いたので転載する。

○なお前田会員は、2012(平成24)年3月15日付メールで

「ご無沙汰しています。いきなりですが日本帰国の連絡です。3週間ほど前に正式に決まったのですが、ドタバタしていて連絡が遅れました。所属日本部門の組織体制変更などあり、この4月1日付で帰国することになりました。1年弱の短い期間でしたが、それなりにオハイオ生活を楽しむことが出来ました。カミさんも犬も一緒に4月1日成田着のシカゴ発日本航空9便で帰ります。帰国したらまたご連絡させていただきます。また自治医大に住みますので、近いうちにお会いできることを楽しみにしています。前田、F アメリカ合衆国オハイオ州パウエル市」とお知らせいただいたように、現在は元のお住まいに居住しておられる。

オハイオ通信 第1回

Fumihiko “Charlie” Maeda Jul, 6, 2011

オハイオに駐在して2ヶ月が過ぎ、住まいの借家を定めて住所連絡をメールで送ったら、日本山岳会栃木支部の渡邊さんから「時折現地の情報を送ってくれ」とメールが届きあっさり了解してしまいました。

今週はアメリカ合衆国独立記念日があり、ホンダの会社は1週間お休みです。日本の夏休みのようにかなりの会社が休むと言うわけではありません。駐在員は日本に帰ったり、家族でメキシコのカンクーンやナイアガラ観光に行ったりしていますが、ほとんどめばしいところは前回の駐在の時にしているし一人なので、山が無いオハイオ州でも自然散策で知れているHocking Hillへ行くことにしました。その話を書けば良いかなと思ったら、「オハイオ州はどこにあるの?」と聞かれても困るので、まずはオハイオ州の紹介を第1回として、Hocking Hillは第2回目で書くことにしました。タイミング良く続けられるかわかりませんが、とりあえずスタートさせていただきます。

オハイオ (Ohio) 州は合衆国48州の地図で右半分の真ん中よりやや右 (つまり東部の西端)、五大湖の一つエリー湖の南 (デトロイトの南と言った方がわかりやすいかも) に位置しハートの形をしているのでアメリカの心臓とも言われています。東海岸から西へ車でアパラチア山地を越え、下って川を渡ると緑の大地が眼前に広がっています。そこがオハイオ州です。以下、色々なところからのパクリです。より詳しく知りたい方はインターネットで検索してください。

オハイオ州は合衆国に17番目に加盟 (1803年)、独立戦争当時 (今年は150周年) は奴隷制を合法化しなかったため、オハイオを含む中西部

ます)、自動車や鉄鋼業が盛んのほか、「アーミッシュ」と呼ばれる聖書の教えを守り電化製品や自動車など文明機器を使わずに昔ながらの生活を営む人たちが多く住んでいます。著名な出身者は古くはエジソンやライト兄弟、最近では月着陸のアームストロング船長やゴルフのジャック・ニクラウスがいます。(※48州の真ん中より西と思われる、概念が異なります。)

州都は真ん中にあるコロンバス (Columbus) で、全米の中でも住みたい町の上にランクされたことがあると聞いています。ホンダの自動車工場と研究所はこのコロンバスの北西直線で約50kmぐらいのところにあります

駐在員はこのコロンバスの大環状270号線の北西のところにあるダブリン (Dublin) 市やその周辺のパウエル (Powell) 市などに住んでいます。環境的には東京の田園調布? ビバリーヒルズ? とは言いませんが非常に住みやすいところです

7月4日は独立記念日、隣町のダブリン市のイベントに出かけてきました。国歌斉唱ではアメリカの住人となったのだなと実感がわきます。では、次回Hocking Hillの報告まで。

独立記念日の昼間のパレード



オハイオ通信 第2回

Fumihiko "Charlie" Maeda Jul, 9, 2011

1 週間の夏休みの後半 7 月 7 日～8 日でオハイオ州コロンバスの南東にある **Hocking Hills** に 1 泊で行ってきました。ところでオハイオ州は海拔どのくらいにあるかご存じですか？実は平均標高 2 6 0 m---宇都宮よりちょっと低いぐらいです---最低標高は 1 3 9 m で、最高地点はコロンバスの北西のホンダのちょっと先にある **Bellefontaine** という町の近くにある **Campbell Hill** で 4 7 2 m (1550ft.) です。関東甲信越程度の広さの土地の標高差がこの程度ですから、どこへ行ってもちょっとした丘があるだけで、頂上から眼下に広がる大地を見下ろすことは望むべくもありません。先ほどの最高標高地点も私有地の一角で、記念に行くというところではありません（前回の駐在時は探して近くを通りましたが）。

さて **Hocking Hills** ですが自宅のある **Powell** 市から約 8 0 マイル 2 時間弱でつきます。大体の標高は 3 0 0 m ぐらいでしょう。州立公園になってはいますが、全体は普通の人々が暮らす生活している地域です。広さは 2 0 k m ぐらい、その中に **Cliff** や **Fall** や **Cave** 等の景勝地（氷河で浸食された地形と言われています）が点在しています。

その中の一つが **Old Man's Cave** で、ここには **Visitor Center** があり展示や売店があります。 **Cave** の上と下にそれぞれ滝があり、絵を描いて楽しんでいる人がいました。

Hocking Hills には他に **Cedar Falls**, **Ash Cave**, **Cockles' Hollow**, **Rock House**, **Cantwell Cliffs** 等があり、多くは 1 5 ～ 3 0 m の断崖（**Cockles' Hollow** は 6 0 m）で、その下や上を遊歩道があります。整備されていますが、柵など多少注意が必要です。これらの場所は、ピクニックなど賑わっていますが、人静かなところがあります。それが山がないオハイオにもあるロッククライミングをする場所で、**Cockles' Hollow** の近くにあります。

入口の駐車場には、概念図と入山カードが置いてあります。トレースはありますが、人もいないし森林の中うっかりするとどこを歩いているのだろうと気になります。宇都宮で言うと古賀志山の不動滝のイメージです。当日はヘルメットを持った子供達のサマーキャンプ（すでに学校は夏休みなので、色々な日帰りキャンプがあります）が一組入っただけでした。テクニクを磨くのなら室内のクライミングジムの方が良さそうですが、やはり自然の中はそれなりの雰囲気に入ることができます。（コロンバス中心部の公園に前回無かった屋外人工岩場ができました。そのうちレポートさせていただきます。）

さて7日の晩に泊まったのが **Cedar Falls** 近くの **Inn & Spa at Cedar Falls** です。1 8 4 0 年代のログキャビンを含む **Bed & Breakfast** の日本で言うとペンションです。携帯もつながらないのでメールボックスを開くこともなく、またお風呂に熱いお湯をためてつかり（アメリカでは貴重です）、リラックスすることができました。

翌日8日は朝から雨、予定していた **Cockles' Hollow** のトレイル (2.5mile, 2 時間弱ぐらい) は次回に持ち越し、雨の中を帰ってきました。 **Hocking Hills** は紅葉がきれいなので、その時期また来ようと考えています。

次回オハイオ通信はいつになるかわかりませんが、気ままに書きますのでよろしく願います。



Ash Cave・・・滝があり冬には氷柱ができます。人の大きさわかりますか？



ロッククライミングのゲレンデ

2010 年度の活動の足跡

第1回役員会

日 時：2010 年 4 月 10 日(土)17:00~17:40

場 所：日光市足尾銀山平『かめむら別館』

参加者：役員 10 名中 8 名

- 「春山山行」と「懇親会」に先立って、17:00 より役員会が行なわれ、支部総会議題・会報第 3 号・春山山行の役割分担・来年 2 月の三支部合同懇談会について協議した。
- また事務局の負担軽減のために、事務局内に事業委員会を設置して担当者を決めて、事業を実施することが承認された。

足尾歴史探訪・春山山行

日時：2010 年 4 月 10 日(土)~11 日(日)

場所：足尾歴史館、『かめむら別館』、庚申山、備前楯山

参加者：会員 24 名

日下田、山野井、森、沖夫妻、渡邊、坂口、牛窪、前田文、石沢、山本、上田、仙石、中村、関根、菱田、長夫妻、北見、稲葉・令嬢、麦倉、早川、石井

行動概要

4/10(土)：、日光駅集合 12:45、分乗して足尾銅山観光にて合流…足尾歴史館 14:00~15:30…かめむら別館 16:00、会計監査 16:30、役員会 17:00~17:40…懇親会 18:30~

4/11(日)：朝食後、庚申班・備前楯山班に別れる。
庚申班：山野井、森、渡邊、牛窪、前田、山本、上田、仙石、関根、菱田、麦倉、早川、石井の 13 名。
駐車場 7:30…一の鳥居 8:25…庚申山荘 9:45…庚申山 11:30…駐車場 15:00。

備前楯山班：日下田、沖夫妻、坂口、中村、北見、長の 7 名。舟石峠駐車場から 1 時間で頂上。

- 4/10(土)日光駅前集合、分乗して足尾銅山観光へ。ここで足利方面からの会員と合流し、足尾歴史館へ。かつて銅山で利用されたガソリンカーを見た。長井一雄館長から足尾の光と影の話を拝聴しながら展示を見学した。その後銀山平の「かめむら別館」に移動。お湯につかる。会計監査・役員会を実施した。大広間で懇親会を行う。夜になり中庭に狸が現れ、我々の遊び相手になってくれた。
- 11日(日)：6:30朝食。旅館前で集合写真。庚申班はかじか荘先の駐車場に車を移動し7:30出発。一の鳥居、庚申山荘を経て、山頂への急峻な道を進む。頂上への稜線に出ると残雪も増える。頂上11:30~12:05。頂上からの展望はないが、鋸岳への道を少し進むと

展望が開ける。展望を楽しみ、往路をたどって駐車場着15:00、解散。備前楯山班は車で舟石峠駐車場へ。ここからゆっくり歩いて1時間ほどで備前楯山頂上へ。この山頂の下には総延長1,200kmにも及ぶ坑道が掘られていることを、昨日の館長さんの講話から思ったことでした。

第2回役員会

日 時：2010 年 5 月 29 日(土)14:30~15:40

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

参加者：役員 10 名全員

- 総会を前にして直前準備をした。さらに沖会員のマリ峰遠征隊の後援や、新たに設置が予定されている事業委員会の任務内容や役割分担についても協議した。

総会、並びに懇親会・壮行会

日 時：2010 年 5 月 29 日(日)16:00~19:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』3F 会議室

参加者：総会に 27 名、懇親会に 27 名

- 神島委員の進行で始まり、日下田支部長から挨拶を頂戴した。支部発足時は会員32名であったが、その後会員が増加して現在50名になったこと、公益法人に移行するに伴い各支部の決算等も本部の基準に基づいたものになること、沖会員の遠征等について挨拶をされた。
- 議長に前田委員を選出し、議事に入る。平成 21 年度事業報告(渡邊事務局長)・同決算報告(石澤委員)及び監査報告(坂口監事)・平成 22 年度事業計画案(渡邊事務局長)・同予算案(石澤委員)が提案され、全議案ともに全会一致で承認された。続いて事業委員会の設置について渡邊事務局長から提案があり、承認された。委員長には麦倉会員が就任した。最後に新入会員のうち、出席された 3 名の会員【内間茂(14626)・仲島正子(14679)・鈴木清一(14721)】が紹介された。さらに沖会員からは『中京山岳会マリ峰登山隊 2010』の計画概要の話、仙石会員からはジュニア登山教室の話があった。なお、総会資料とともに「栃木支部報第 3 号」(平成 22 年 4 月 1 日付)が配布された。
- 会場を 1F タイムズスクエアに移して、17:00 より懇親会、ならびに沖会員のマリ峰遠征の壮行会となる。進行は石澤委員が行う。会員 27 名が参加、情報交換を行うとともに近況報告があり、間に会員のスピーチ等も差し挟みながら終始なごやかに歓談が続いた。
- 詳細は、後述する総会記事を参照されたい。



司会の前田会員



総会風景



事業計画を説明する渡邊事務局長



マリ峰遠征を紹介する沖会員

第3回役員会・事業委員会

日 時：2010年6月20日(日)15:00~15:45

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

参加者：役員 16 名 中 名

- 同日実施の「山岳映画の夕べ」を前に、役割分担等の最終打合せを行う。また夏山登山や今後の行事予定について協議した。
- さらに支部総会・懇親会、会費納入状況、清掃登山、本部関係等の報告があった。

第3回夏の山岳映画の夕べ (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2010年6月20日(日)16:00~18:15

場 所：宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール

映 画：「山男」1961年(モノクロ、55分)

「未踏の氷壁」1960年(天然色、32分)

講 演：羽田栄治氏(元日本山岳会資料映像委員長)
「スクリーン登山を楽しむ」

参加者：支部会員 21 名、コンセーレ学習セミナー
会員、一般の方(71名)等、合計 92 名

- 本支部の公益事業として、会場となったコンセーレとの共催で、同所アイリスホールで開催した。広報活動の成果で、ほぼ満席の参加者だった。
- はじめに羽田栄治講師から「“アーカイブ”って何のこと」と題した講義を拝聴した。最近耳にするこの多くなった言葉だが、元来は公文書を意味するようで、保存記録的な意味合いで使われているということであった。
- 「山男」は、2009年11月に100歳で命終された福原健司のアマチュア時代の作品。膨大な数の山岳映画・スキー映画を残されているそうだ。立山信仰のガイド村として有名な芦峠を舞台とした、そこに働く地元ガイドの暮らしの変化を記録した作品。立山のか開発に伴って、「ガイド」から「ボッカ」に変わっていく過程をとらえており、「立山ボッカ」の活躍の真髄を見させていただいた。
- 「未踏の氷壁」は、副題のようにジュガール・ヒマール遠征の記録で、社会人山岳会初の海外遠征の記録映画である。遠征の名にふさわしく、長い船旅、キャラバン、そしてようやく登山という長大な労力を要する実態がよくわかった。撮影したのはカメラマンとして同行された羽田講師ご自身だったそうだ。羽田講師の話から撮影される側のご苦労もよくわかった。
- 映画会終了後、部屋を変えて、恒例のビアパーティを行った。会員 22 名に羽田講師の他、元ネパール大使の神長善次氏も参加され、講師を囲んで映画やネパールの話、会員の近況報告などが交わされ、楽しいひと時を過ごした。

日光清掃登山(栃木県岳連との共催)

日 時：2010年7月3日(土)、4日(日)
場 所：日光湯元キャンプ場、戦場ヶ原、小田代ヶ原、千手が浜
参加者：前夜祭…会員9名、岳連参加者20名
清掃登山…会員9名、一般11名
【全体では200名程度】
行動概要：7/3(土)17:00～前夜祭
7/4(日)開会式 7:30、湯元発 8:00…湯滝 8:40
…小田代ヶ原 10:30…西の湖 13:15…千手が浜
14:15…菖蒲が浜 15:30…湯元…15:40、解散

○栃木県山岳連盟の行事であるが、本支部も共催団体として参加。前夜祭には9名の会員が参加。湯元キャンプ場にて「日光の自然を考える集い」が開催され、講師には湯の湖荘の伊藤誠氏を招いて講話をいただいた。その後は交流会となり、定刻まで賑やかに過ごした。

○翌日はビジターセンター前で開会式を行う。小島岳連会長の挨拶後、麦倉会員が山の日制定プロジェクトの説明を行った。栃木支部は西の湖コースを担当したが、ゴミは殆どなく、山の自然を満喫することができた。菖蒲が浜からは回送しておいた車で湯元に戻り、回収したゴミを処分し、温泉に浸かって解散となった。

第4回役員会・事業委員会

日 時：2010年8月21日(土)17:00～18:00
場 所：コンセーレ内タイムズスクエア
参加者：役員16名中10名

○夏山山行の準備状況、那須岳クリーンキャンペーン、沖会員のインド・ヒマラヤ登山報告、支部長会議、全国支部懇談会、日本山岳会旗注文等について報告があった。また秋山山行、ヒマラヤの集い、秋季講演会等について協議した。

○終了後、同所にて暑気払いをした。



根名草山頂にて

夏山山行・懇親会

日 時：2010年8月28日(土)～29日(日)
場 所：奥鬼怒温泉郷 加仁湯、根名草山、鬼怒沼
参加者：会員15名(宿泊14)、他3名の計18名
行動概要：
8/28(土)：
○Aコース【根名草山から加仁湯へ】(6名)
前田(文)、山口、長、吉田、西村、宮川
JR日光駅 7:00…金精峠駐車場 8:00 発…温泉岳
発 10:00…念仏平避難小屋 11:25 発…根名草山
12:25 発…手白沢分岐 13:50…加仁湯 15:10
○Bコース【女夫淵から加仁湯へ】(11名)
前田(洋)、山野井、森、井上、藤田、上田
鈴木、坂口、乾、関根、中村
東武鬼怒川駅 12:00…女夫淵 13:45==
加仁湯 14:30、懇親会 18:00～20:00
8/29(日)：宿 7:500…鬼怒沼 10:45～11:40…
○鬼怒沼山隊：加仁湯 6:00…鬼怒沼山…鬼怒沼避
難小屋(本隊と合流)11:15
○鬼怒沼本隊：加仁湯発 8:00…丸沼分岐 8:40…
鬼怒沼入口 11:00…加仁湯 13:45、入浴==
女夫淵 15:00、解散

○8/28(土)：Aコース【金精峠から根名草山を経て加仁湯へ】は6名で、会員4名と西村さん(多摩支部)、宮川さん(埼玉支部)である。念仏平避難小屋の水場は枯れていた。15分ほど手前の小屋跡の水場は流れていた。根名草を過ぎて小休止すると雷雨となった。雨で足下が滑りやすく、下りのペースがダウンする。15:10ようやく加仁湯着。

小屋音は、7:00 JR日光駅集合。山野井車・渡邊車に分乗して金精トンネル入口駐車場へ。同発 8:20。高曇りである。最初の1ピッチから急登である。金精神社で小休止(8:50～9:05)。霧雨模様の天気、眺望はあまりない。このところの雨不足のせい、途中にある水場の流れも殆どない。念仏平避難小屋にて昼食をとる(11:00～11:30)。肌寒いと思ったら気温は15℃しかない。出発間際に雨脚が目立つようになり、合羽や傘の用意をする。順調に高度をかき根名草山に着く。みんなで記念撮影をする(12:15～12:50)。気温11℃。雨はあがったが見晴らしはあまりない。ここからはひたすらの下りである。途中1回の小休止をとり、加仁湯着 15:30。

Bコース【女夫淵から加仁湯へ】は会員10名と東京の藤田さんである。雷雨のため全員バスで女夫淵から加仁湯へ。14:30着。その後温泉を楽しみ、18:00から懇親会となる。山野井副支部長挨拶に始まり、会員以外の方の自己紹介もはさんで楽しく過ごした。西村さん差し入れの泡盛を囲んで2次会にも花が咲いた。明日早立ちの方もおるので22:00消灯。

○8/30(日)：【鬼怒沼山隊(3名)】。関根、吉田、長の3名は早朝出発、鬼怒沼山まで行き、11:15 鬼怒沼本隊と合流。【鬼怒沼本隊(14名+当日合流の仙石の15名)】玄関前に出ると仙石会員がいた！合流して加仁湯8:00発。オソオソロシ展望台で乾さん、山口さんは下山。鬼怒沼入口に11:00着。昼食後、雷雨の心配があるので早めに下山にかかり、同発11:35。吉田さんは避難小屋泊。13:45 加仁湯着。湯につかり汗を流したあとバスに乗車。女夫湫15:00着、解散。



加仁湯玄関にて、出発前の会員



鬼怒沼の湿原の中のベンチに腰掛けて昼食をとる



湿原の中を歩く…右から西村さん、藤田さん、上田さん

那須岳クリーンキャンペーン (栃木県山岳連盟との共催)

日時：2010年9月4日(土)、5日(日)
場所：那須岳峠の茶屋園地、那須岳周辺
参加者：会員9名(坂口、森、小島、仙石、東、後藤、仲畠、稲葉、吉沢)、他8名の17名

○栃木県山岳連盟の行事であるが、本支部も共催団体として参加、上記の会員が清掃活動にあたった。

○9/4(土)：満天の星空の下、夕刻から峠の茶屋園地で各山岳会との交歓会が行われた。

○9/5(日)：峠の茶屋駐車場にて7:30より開会式。その後は各会ごとに清掃活動にあたる。支部としての統一行動はとらず、森・後藤会員は姥ヶ平方面、稲葉会員は朝日岳方面等、それぞれが行動した。むしろ問題はロープウェイ山麓駅と峠の茶屋駐車場の間の混雑と路上駐車である。県外ナンバーも多かった。キャンペーン参加者は大丸に駐車し、乗り合わせて上に行く等の工夫が必要である。

秋山山行・懇親会

日時：2010年10月11日(月)
場所：日光市鳴虫山(1103.5m)
参加者：会員16名、他3名の19名
日下田、山野井、森、沖夫妻、渡邊、坂口、石沢、佐藤、山本、中村、長、北見、猿山、吉澤、鈴木、稲葉・令嬢、藤田
行動概要
10/11(月)：、日光駅集合7:45…日光市体育館へ、同発8:03…神ノ主山9:20…鳴虫山11:05～11:45…合峰12:00…含満ヶ淵13:50…日光市体育館、同所にて懇親会15:00～16:00

○4/10(土)日光駅前集合後、日光市体育館に移動。昨日の雨が上がりよい天気だ。日下田支部長から挨拶をいただき8:03出発する。登山口から2回の小休止後、神ノ主山(842m)着9:20。記念写真を撮る。紅葉には早い日光連山の山並みが美しい。ここからの登山道は、木の根がむき出しになっていて歩きづらい。何度か偽ピークをやり過ぎて鳴虫山山頂に11:05到着。40分の昼食休憩とした。山頂付近は少し紅葉が始まっていた。ここまでは静かな山登りであったが、頂上にはたくさんの方がいた。はしごや急坂を下り、合峰に着く。その後1回の小休止を入れて、含満ヶ淵に出る。ここでいったん解散して各自日光市体育館まで歩く。15:00から同所にて懇親会を行う。小島、前田、神島会員が合流し、ビールで喉をうるおしながら、しばし歓談する。

第5回役員会・事業委員会

日 時：2010年10月11日(月)16:00~17:00

場 所：日光市体育館会議室

参加者：役員16名中12名

- 秋山山行・懇親会の後、日光市体育館会議室で開催する。夏山山行・那須岳クリーンキャンペーンの報告、支部長会議・全国支部懇談会の報告等があった。またヒマラヤの集い・秋季講演会・三支部合同懇談会の準備状況について協議した。
- また支部長交代が緊急の議題として提案され、新支部長には山野井武夫副支部長が就任し、交代時期は遡って平成22(2010)年10月1日とすることになった。なお日下田實前支部長は、支部規約を改正した上で、支部顧問に就任することになった。なお空席の副支部長は、役員改選の次期総会まで渡邊事務局長が代行することになった。あわせて、日下田實会員を名誉会員として推薦することも了承された。

第6回役員会・事業委員会

日 時：2010年11月23日(火)13:30~14:40

場 所：コンセーレ内タイムズスクエア

参加者：役員16名中13名

- 山野井新支部長の挨拶の後、①支部長交代の件は本部10月理事会で承認されたこと、②日下田前支部長が名誉会員になられたこと、③第4回秋季講演会において那珂川町教育委員会・栃木県山岳連盟の名義使用が承認されたこと等の報告事項について話し合った。
- ついでヒマラヤの集い、秋季講演会、三支部合同懇談会等について協議した。

第2回「ヒマラヤの集い」講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2010年11月23日(火)15:00~17:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

参加者：本支部会員19名と一般42名、計61名

講師：黒田誠氏(日本山岳ガイド協会認定登攀ガイド)

演 題：「ランタン谷でのクライミング」

- 本支部の公益事業として、会場となったコンセーレとの共催で開催した。
- 本年9月~10月にかけてネパール・ランタン谷のクライミングに出かけ無事帰国されたばかりであり、最新のネパールヒマラヤ情報をお話いただいた。
- 講演会後、懇親会を行った。

第4回秋季講演会

(本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2010年11月27日(土)15:00~17:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

参加者：本支部会員26名、コンセーレ関係29名

宇女高OG13名、一般50名、計118名

講 師：桑野正光氏(那珂川町教育長、JAC会員)

演 題：「栃木の峠」…峠を通して見た栃木の先人のあゆみ

- 会場入口には、桑野講師が峠歩きで撮られた石仏や道祖神の写真が飾られた。題して「峠で出会った仏達」。多くの写真の中から厳選されたものばかりで、じっと見いている方が多かった。機会があれば、説明を受けながら時間をかけて拝見したいものだ。会場内では講演会開会までの30分ほどの時間ではあるが、NHKの「世界の名峰・グレートサミット」シリーズの中の第10回「ウィルヘルム」が上映された。この番組スタッフのコーディネートをしたのが、桑野講師の宇女高山岳部の教え子である見形明美さんであり、講師のたつてのご要望により上映をした。
- 山野井支部長のあいさつ、石澤会員の講師紹介の後、さっそく講演に移る。軽妙洒脱なお話しに加えて、パワーポイントでの写真・図・要点説明が的確でいて、とてもわかりやすくお話をいただくことができた。
- 今、なぜ峠なのか、という口上から講演会は始まった。峠は、時代の盛衰とともに、時々の政治・経済や文化などと深い関わりを持ちながら地域の歴史とともに歩んできたが、今まさに時代の波の中に埋没し、人々の記憶から消えようとしている所が多い。このまま地図の上からも消滅してしまえば、峠とともに歩んできた日本人の精神や文化も失うことになる。今、忘れ去られようとしている峠を記憶しておくことは、地域史にとどまらず、栃木県の歴史や文化の確認にもなる重要なことだ、と力説された。
- 「峠」という文字は、日本独特の国字であり、まさに日本人の生活の必要性から生み出された文字であるご指摘され、さらに峠の持つ精神性にも触れられた。講演の中で話題にされた峠は、大峠、須花峠、尾頭峠、桃の木峠、大名峠、花立峠、鞍掛峠、白葉峠、峰の茶屋、湯坂峠、山王峠、引馬峠等であり、県内の多くの峠について言及され、さらには、県外の神坂峠や野麦峠等の有名な峠にもお話が及んだ。興味の尽きないお話であった。大ホールを埋め尽くした方々も、熱心に耳を傾けておられた。なお、興味をお持ちの方は、桑野講師の著された『栃木の峠……峠でたどる暮らしと文化』をご一読願いたい。

○なお、講演会終了後、2階アイリスホールにて、桑野講師を囲んでの懇親会が開かれた。50名ほどの方が参加され、和やかなひとときを過ごした。



熱弁をふるう桑野講師



100人以上の方が熱心に聞いておられます



多くの方が熱心に耳を傾ける



宇女高OGとともに熱唱する桑野講師



懇親会にも多くの方が参加されました

第7回役員会・事業委員会

日 時：2011年2月6日(日)17:00～18:30
場 所：コンセーレ内タイムズスクエア
参加者：役員16名中14名

○2010年11月のヒマラヤの集いと秋季講演会12月の支部長会議と年次晚餐会、2011年2月の事務局長会議の報告があった。また2月19日(土)の日下田前支部長の講演会(益子町民会館)も案内があった。その後間近に迫った三支部合同懇談会、兼栃木支部新年会・冬山山行について協議した。特に三支部合同懇談会については、準備に遺漏なきように時間をかなり割いて協議を進めた。

第4回三支部合同懇談会 兼 栃木支部新年会・冬山山行

日 時：2011年2月12日(土)～13日(日)
場 所：日光市ホテル『千姫物語』『春茂登』
参加者：千葉支部(篠崎支部長以下12名)、茨城支部(奥井支部長代行以下13名)、栃木支部(山野井支部長以下29名)の合計54名
記念講演：『日光の修験道』
：中川光熹氏(日光山興雲律院住職)
行動概要
2/12(土)：『千姫物語』で開会式14:30…記念講演15:00～16:30…『春茂登』へ移動、懇親会18:30～20:30
2/13(日)：7:00朝食…登山班8:00発、世界遺産巡り班8:30発…昼食12:00～14:00、解散

○三年前の2008年2月2日(土)～3日(日)に第1回三支部合同懇談会を日光湯元『湯の湖荘』を中心として開催して三年が経ち、栃木支部主管の懇談会が再び巡ってきた。前回34名であった参加者が今回はかなり増えて54名となった。会員以外にも東京の藤田礼子さん、元ネパール大使の神長善次さんが参加された。

○2/12(土)：日光市内は前夜からの降雪により一面の銀世界となり、遠来のお客様を歓迎した。ホテル『千姫物語』に集合して開会行事を行う。

○続いて興雲律院の中川光熹住職から『日光の修験道』と題する記念講演を拝聴した。奈良時代から現代までの悠久の山岳宗教の歴史について学ぶことができた。その後、宿舎の『春茂登』に移動し、温泉を楽しむ。18:30からは恒例の懇談会となり、三支部の会員が相互に交流を深めた。

○2/13(日)：素晴らしい好天に恵まれ、日光連山の展望台である鳴虫山登山班と日光の世界遺産巡り班に分かれて、それぞれ充実した活動ができた。登山班は新雪をラッセルしながら青空の下で鳴虫山に登頂、こんな機会は滅多に無いので多いに感動した。世界遺産班は地域のボランティアガイド星野初代さんと中川光熹講師の案内で、通常は見学できないような「もう一つの日光」を堪能しその後東照宮を職員の方に案内していただいた。それぞれの活動終了後は、日光駅前の食堂「旭屋」で到着した順に、日光名物の「湯葉御膳」の昼食をとっていただいた。

○次年度は千葉支部の担当となる。

第8回役員会・事業委員会

日 時：2011年2月13日(日)14:00～15:00
場 所：日光公民館
参加者：役員16名中15名

○三支部合同懇談会のまとめ、春山山行・次年度行事について協議した。



『千姫物語』のコンベンションホールに集合した参加者



山野井支部長挨拶



日下田前支部長挨拶



講演中の中川光熹講師



懇談会場風景



春茂登前の世界遺産巡り班



雪の参道を行く世界遺産巡り班



世界遺産巡り班・記念撮影



ボランティアガイドの星野初代さん



星野さんのガイドを熱心に聞く！

2011年度の活動の足跡

春山山行と前田会員激励会

日時: 2011年4月10日(日)

場所: 栃木市桜峠、晃石山、太平山、かかしの里

参加者: 会員、家族を含めて21名

行動概要

JR 栃木駅南口集合 7:50⇒清水寺 8:10…桜峠…晃石山(419m)…ぐみの木峠…富士浅間神社(345m)…太平山神社…大中寺…清水寺 11:50⇒かかしの里(BBQ 広場) 12:00~15:00

○前田文彦・洋子ご夫妻がこの4月からアメリカへ転勤となるため、その門出を祝って激励会を兼ねた春山山行となった。

○高曇りではあったが、快適な山行をすることができた。一等三角点やカタクリの花を満喫するとともに、長い歴史に思いを馳せた山行だった。

○かかしの里のバーベキュー広場について、さっそく BBQ 準備をして激励会にかかる。猿山会員の奥さまにご苦勞をいただいた。並行して役員会を行う。しばしの間、別れを惜しんで歓談にふけた。

第1回役員会・事業委員会

日時: 2011年4月10日(日) 12:00~12:30

場所: 栃木市「かかしの里」

参加者: 役員 16 名中 10 名

○春山下山後、かかしの里での BBQ 開始の前に役員会を実施した。三支部合同懇談会の決算報告、2月19日(土)に行われた「日下田實氏講演とマナスル映画会」の報告等があった。また他の支部の方から地震見舞いの手紙や電話をいただいたとの報告もあった。続いて支部総会の議事や本年度の行事担当者について協議した。



桜峠で記念撮影



桜峠からの登りを行う



異国の地へ赴く前田会員(かかしの里にて)



晃石山(419m)一等三角点



かかしの里でのバーベキュー風景

第2回役員会・事業委員会

日 時：2011年5月28日(土)14:00～15:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

参加者：役員16名中15名

- 総会を前にして役割分担等の直前準備をした。さらに事業委員会の行事担当者、夏の山岳映画の夕べ、日光清掃登山等について協議した。さらに国立登山研修所友の会創立20周年行事のご案内があった。

総会、並びに懇親会

日 時：2011年5月28日(土)16:00～19:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』1F 小ホール

参加者：総会、懇親会ともに26名

- 神島委員の進行で始まり、山野井支部長の挨拶、青年会館内間茂事務局長の祝辞の後、仙石会員を議長に選び議事審議に入る。平成22年度事業報告(渡邊事務局長)・同決算報告(石澤委員)及び監査報告(沖監事)・平成23年度事業計画案(渡邊事務局長)・同予算案(石澤委員)が提案され、全議案ともに全会一致で承認された。渡邊事務局長より会則改正が発議され、役員に顧問を置くことが承認された。続いて役員改選があり、山野井支部長から新役員が提案され、承認された。渡邊事務局長より事業担当者が紹介され、支部報への投稿依頼があった。また震災にかかわる会員の人的被害の調査があった。運営会員からは自然保護委員を募集中なので、奮って応募いただきたいとの依頼があった。柏村会員からはクリーンキャンペーンのあり方について意見があった。子どもたちを対象にした登山を広く呼びかけようとの提案、山の日制定の提案があった。JAC本部の評議員である坂口監事からは、本部の総会通知が届いたら、必ず委任のはがきを返送してほしいとの要望があった。最後に出席者近況報告となり、特に2名の新入会員【片柳洋(14914)・片柳澄子(14915)】が紹介された。
- 会場を2Fバンケットホールに移して、17:00より懇親会となる。進行は石澤委員が行う。会員26名が参加、情報交換を行うとともに近況報告があり、間に会員のスピーチ等も差し挟みながら終始なごやかに歓談が続いた。
- 総会内容の詳細は、後述する総会記事を参照してください。



役員会・事業委員会の光景



総会の出席者



山野井支部長の挨拶



懇親会・みんなで乾杯

日光清掃登山(栃木県岳連との共催)

日 時：2011年7月2日(土)、3日(日)
場 所：日光湯元キャンプ場、切込湖・刈込湖
参加者：前夜祭…会員6名、岳連参加者25名
清掃登山…会員12名、一般1名
【全体では200名超】
行動概要：7/3(土)17:00～前夜祭
7/4(日)開会式7:30、湯元発8:00…小峠9:00
…刈込湖10:00…涸沼11:00…山王峠12:00
…湯元12:30、解散

○栃木県山岳連盟の行事であるが、本支部も共催団体として参加。前夜祭は湯元キャンプ場にて実施。日光博物館の鈴木文益氏が「奥日光の自然観察」という演題で講演された。その後は交流会となり、定刻まで賑やかに過ごした。

○翌日はビジターセンター前で開会式を行う。小島岳連会長の挨拶後、麦倉会員が山の日制定プロジェクトの説明を行った。栃木支部は切込湖・刈込湖コースを担当したが、ゴミは殆どなく、鹿の足跡が目立っていた。湯元に戻り解散となる。温泉に浸かって疲れと汗を洗い流した。

第3回役員会・事業委員会

日 時：2011年7月9日(土)14:30～15:40
場 所：コンセーレ内タイムズスクエア
参加者：役員16名中9名

○支部総会、清掃登山、支部長会議、JAC総会等の報告があった。本日の行事(夏の山岳映画の夕べ)の役割分担、夏山山行、那須岳クリーンキャンペーン、秋山山行、ヒマラヤの集い、秋季講演会等について協議した。

第4回夏の山岳映画の夕べ (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2011年7月9日(土)16:00～18:20
場 所：宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール
映 画：「白き氷河の果てに」1977年、2h03m
講 演：羽田栄治氏(日本山岳会資料映像委員)
「山の記録映画に見るカメラワーク」
参加者：支部会員13名、コンセーレ学習セミナー
会員4名、一般(41名)等、合計約60名

○本支部の公益事業として、会場となったコンセーレとの共催で、同所アイリスホールで開催した。一般参加者は、新聞で開催を知って来場した方が多いようであった。

○はじめに羽田栄治講師から「山の記録映画に見るカメラワーク」と題した講義を拝聴した。特に山岳映画とドキュメンタリーとの違い、映像フィルムのもつ重みについてお話をされた。7月2日が「谷川岳の日」として制定されたことから、谷川岳での過去の宙吊り事故の時には、伝書鳩を使って原稿が運ばれたことや、ジュンガル・ヒマール50周年記念の際に、皇太子殿下よりお言葉をいただいたことについて話された。撮影機材の進歩による撮影技術の変化では、昔は露出計やファインダーをのぞいての距離計算の訓練を行い、撮影技術の研鑽に努力したことなどの説明があった。K2登山隊では6名のカメラマンが同行し、記録の撮影にあたったそうだ。映画からは、編集技術や見てもらうことの難しさの中から技術の向上が図られてきたこと、「映画を通して人間を見てもらいたい」とのお話があり、講演の後、K2登山隊の映画上映に入った。

○映画は、登山隊の準備状況、現地でのポーターの雇入れ状況、長いキャラバン途中での生活などから始まった。参加者の中からは、同年代の今は亡き隊員を懐かしむ声も聞かれた。K2登頂の日が近づく場面では、登頂メンバー選出での隊長の決断、選ばれるまでの隊員の葛藤、登頂した隊員、悪天候で登頂断念を余儀なくされた隊員の心情など、創作された映画とは異なる迫真力を感じた。このあたりが羽田講師のおっしゃる「映画を通して人間を見てもらいたい」場面で、参加者も講師の説明に納得がいったことと思う。

○映画会の後は懇親会に移り、講師を囲んで映画にまつわる話など、会員(13名が懇親会に出席)の懇親を深めた。講師は、前橋市で開かれている日本山岳写真協会両毛支部展にご出席のため中座、前橋の会場に向かわれた。



羽田栄治講師



第4回役員会・事業委員会

日 時：2011年8月20日(土)17:00~18:00

場 所：コンセーレ内タイムズスクエア

参加者：役員16名中9名

○夏の山岳映画の夕べ、オハイオ通信、沖会員のマリ峰初登頂、臨時支部事務局担当者会議、全国支部懇談会等の報告があった。夏山山行、那須岳クリーンキャンペーン、秋山山行、ヒマラヤの集い、秋季講演会等について協議した。

○終了後、同所にて暑気払いをした。

夏山山行・懇親会

日 時：2011年8月27日(土)~28日(日)

場 所：奥日光・赤岩滝、奥鬼怒温泉郷 加仁湯、湯沢噴泉塔、鬼怒沼

参加者：会員17名、他1名の計18名

行動概要：

8/27(土)：

○Aコース【奥日光赤岩滝、柳沢川遡行】(11名)
森、沖夫妻、小島、中村、神島、長、早川、石井、鈴木、仲島

JR 日光駅 7:00=戦場ヶ原赤沼駐車場 8:40…

西の湖入口 9:00…赤岩滝 11:00…西の湖入口

13:40…赤沼駐車場 14:00=女夫淵 14:50…加

仁湯 15:15…懇親会 18:00~20:00

○Cコース【女夫淵から加仁湯へ】(6名)

山野井、乾、上田、関根、北見、片柳(澄)

東武鬼怒川温泉駅 12:00…女夫淵 13:15…

加仁湯 15:15…懇親会 18:00~20:00

8/28(日)：朝食 7:00

○Dコース【湯沢噴泉塔往復】(7名)

森、小島、上田、神島、長、北見、仲島

加仁湯 8:00=女夫淵 8:15=噴泉塔駐車場 8:45

…噴泉塔 12:00…噴泉塔駐車場 15:10=女夫淵

15:20、奥鬼怒隊と合流し 15:30 解散

○Eコース【鬼怒沼往復】(8名)

山野井、乾、中村、関根、早川、石井、鈴木、片柳

加仁湯 8:00…鬼怒沼 11:00、同発 12:00…加仁

湯 13:30、入浴=女夫淵 15:30、解散

○8/27(土)：Aコース【奥日光赤岩滝遡行】7:00にJR日光駅集合。小島車・神島車・仲島車に乗り込み、日光戦場ヶ原赤沼まで。赤沼でハイブリッドバスに乗り換えて西の湖入口9:00着。白檜岳より流れる赤岩沢が、幅7m、落差100mの赤岩滝となって、柳沢川の水量が増す、新緑の時も紅葉の時もさぞ素晴らしいだろうと想像する。赤岩滝11:00着。昼食をとる。復路はもと来た道を西の湖入口まで。そこからバスで赤沼へ、14:00着。赤沼より車で山

王峠經由で女夫淵へ。さらに送迎バスで加仁湯へ15:15着。

Cコース【女夫淵から加仁湯へ】東武鬼怒川温泉駅集合12:00。北見車・関根車に分乗して出発。駅周辺では小雨がぱらつき、女夫淵からはバスですね！とお互いに言い合っていた。女夫淵13:15着。なんと高曇りで、昨年のような土砂降りではなく、思わず「歩いて行きませんか〜」と上田。あ、あ、何と女心と山の天気よ！！乾さんが少しガッカリしたような顔をされて、他の方々に聞くと、「あの階段を上るのですか」と山野井さん。初めての私は全然知らず、バスが来て「一人乗車で、荷物を載せてください、他は歩いて参ります」するとドライバーさん「途中まで乗ってください」と、長い階段を上らず、遊歩道口までバスに乗せて戴き、乾さんと別れる。鬼怒川の瀬音を聞きながら、八丁ノ湯へと進む。「ウダイカンパ」と木に掛かっている看板を見て、一瞬“宇大？”宇都宮大学を想像した。ハンゴンソウ、アキノキリンソウのような花、イヌタデなどの花の道、大きなログハウスの八丁ノ湯の前のベンチで一休み。イモリの黒焼きのほれ薬を聞いてみたかったが、赤岩滝の班は着いているかも…と前進。遙か高いスーパー林道の橋の下を進み、15:15加仁湯着。丁度バスが到着。

夕食までの時間、加仁湯の秘湯にとっぷりとつかり身体を休め楽しむ。18:00夕食。大きなコの字形になって、呑む、飲む、のむ、ビールが美味しい！濁り酒をもう一本リクエストするほど盛り上がり、お膳の上は全部美味しく頂いて、各自近況報告、山への憧憬を語って一本締め。二次会なし。

○8/28(日)：7:00朝食。イワナの一夜干しの美味しいこと。お弁当を頂いて7:50玄関前集合、加仁湯の提灯をバックに全員記念撮影後、噴泉塔班、鬼怒沼班に分かれ出発する。狭い木々の間から青い空と白い雲！今日はいいお天気のように。沖夫妻は下山する。

Dコース【湯沢噴泉塔往復】送迎バスで女夫淵へ。坂口さんがお見えになったがガソリンが漏れて(?)急遽帰られた。小島車・神島車に乗り換えて、平家平温泉の少し下流、噴泉塔入口に駐車(4台ほど駐車できるスペースがある)。8:45スタート。鬼怒川に架かる橋を渡り、湯沢左岸に行く。シロヨメナ、キオンの花道、途中、山王峠へ行く道の白いガードレールが上空のように感じられるほどの高さの木々の間に見える。渡渉はまだなく、川音を聞きながら徐々に登る。笹倉沢との出合を過ぎた頃から、明らかに昔は橋が架かっていたというところに、立派な丸太橋が横付けになっている。濡れるのは当たり前とは思っていても、なるべくなら濡れたくない、そんな思いがある。11回の渡渉ですっ

かり靴の中に水ががぶがぶ入って、歩くたびにブー、ブニャッ、奇声を発する。尾根筋を超えたしゃくなげの道で、「おっ、ちたけ!!」と小島さん。続いて長さんが見つけ、ゲットした。さぞ美味しかったでしょうね……

木々の間から溪流が見え、滝が見え、湯気のようなものが見えると、そこが噴泉塔だ。滝の半分は水、その隣は湯気を立て、湯が鍾乳洞のように乳白色の岩の上に落ちている。12:00 着。あたりは硫黄の匂い、ぼこぼこと熱い湯がイソギンチャクのような穴から出ていた。昼食 12:15~12:45。復路は来た道に戻る。途中、完全に人工的に手を加えボーリングした温泉口やブルーシートの掛かった野天風呂の痕跡があり、ゆっくり見学した。オジン、オバンは足取り重く、駐車場へ。車で女夫淵へ、15:20 到着。自販機の前で、水分を取ること、取ること!! ペットボトル大瓶 1 本、小瓶 1 本、あつという間に平らげてしまう。こういうときは何故かコーラが効く!! と神島さん、小島さん。…と雨が降ってきた。鬼怒沼班と合流、15:30 解散。ご苦労様でした。

※出で立ち(沢には沢の……)

小島さん：地下足袋スタイルで親指が上では離れていて底では付いている、コハゼ 18 枚のもの。

長さん：沢用の靴、なんと底がフェルトになっている。沢用のズボン。

仲島さん：釣り用のウエットハイソックスにウォーキング用のサンダル。

神島さん：濡れたかどうか判らないようなズボン。

※附記

*ウダイカンバ(かばのき科)：鵜松明カンバの略で、この樹皮は雨の中でもよく燃えるから鵜を使って魚を捕るときのタイマツとして用いるのでこの名がある。シラカンバの皮も同様に用いられ、ウダイマツという。(牧野新日本植物図鑑より)

*噴泉塔：石灰華の一種。温泉に含まれる成分が空気に触れ、沈殿物(炭酸カルシウム・水酸化マグネシウム)となり、それが固まって長い間に塔のような形状になったものを指す。(ウィキペディアより)

Eコース【鬼怒沼往復】 8:00 出発。今年で4回目の登山、根名草山から見たときは辺り一面草原で、何とのどかなところかと思ったが、いざ登ってみると、緩やかな登りが長く、まだかまだか…と思うが、楽しく登れば時間通りに着く。11:00 着。昼食 1 時間。高層湿原の植物を見ながら木道を一周、ベンチに一列になって記念撮影。その後下山する。加

仁湯着 13:30。入浴後、宿のバスで加仁湯を出発、バスがなかなか来なくて、女夫淵 15:30 着。Berg Heil!!
【上田記】



8/27(土)：西の湖入口駐車場



8/27(土)：渡渉中の沖ご夫妻



8/27(土)：滝横に集合



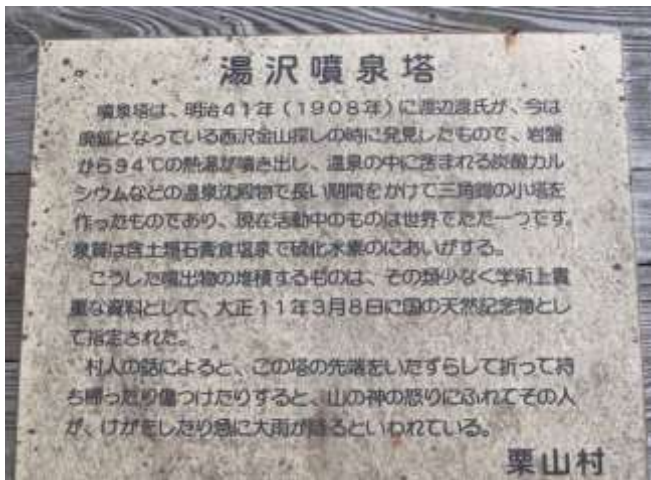
8/27(土)：西の湖にて



8/28(日) : 最初の登り、まだ元気！？



8/28(日) : 噴泉塔！！



8/28(日) : 鬼怒川の橋まで戻ったところ！！

第34回那須岳クリーンキャンペーン (栃木県山岳連盟との共催)

日時：2011年9月3日(土)、4日(日)

場所：那須岳ロープウェイ山麓駅

参加者：会員4名、会員家族1名、計5名

○前夜祭は台風の影響で中止。悪天の中、4日に集合した会員は運行していないロープウェイ山麓駅に移動して、岳連自然保護委員より「携帯トイレ」の学習会をして解散となった。ご苦労様でした。

秋山山行

日時：2011年10月10日(月)

場所：古峰ヶ原高原

参加者：会員14名、他1名の15名

山野井、森、小島、渡邊、佐藤、山本、石澤、仙石、上田、中村、長、猿山、早川、石井、藤田(東京)

行動概要 10/10(月)

古峰神社 8:25、同発 8:30＝古峰峠 8:40～50…

巴の宿 9:04…古峰峠 9:17…1377.7m 三角点

10:16…三枚岩 10:25～39…方塞山 11:00～40

…三枚岩 12:00…古峰神社駐車場 14:06、解散

…車を取りにいて古峰神社駐車場 14:30

○10/10(月)：新鹿沼駅で渡邊事務局長及び藤田さんを上田氏及び猿山さんにピックアップして頂き、予定より早い8:25に参加15名が古峰神社駐車場に集合することができた。山野井支部長の挨拶の後、4台の車に分乗して8:30出発、古峰峠到着8:40。紅葉には早かったが雲ひとつない快晴でハイキング日和である。準備運動をし8:50出発。古峰原ヒュッテを通り、巴の宿到着9:04。15分ほど巴の宿を見学し古峰峠に戻る。9:17峠着。峠にて休憩後樹林の中をのんびりと歩く。10:16に1377.7mの三角点到着。三角点は縦走路を10mほど入ったところにあった。天狗の庭を過ぎ勝道上人が修行したといわれる三枚石に10:25到着。ここには古峰神社奥の院がある。三枚石にて休憩、集合写真を撮り10:39出発。20分ほどで方塞山に到着する。横根山等の展望が素晴らしい。ここで11:00～40大休止をし昼食にする。ここから往路を三枚石まで戻る。三枚石を12:00に通過し、古峰神社に向け下山する。落ち葉が登山道を覆い道を間違えやすい。赤テープや赤布を頼りに進む。最後の下りで数名が道を間違えたが駐車場で合流できた。途中3回ほど休憩をして14:06古峰神社駐車場到着。駐車場で山野井支部長の挨拶を頂き解散する。この後、小島氏の車で古峰峠まで4台の車を取りに戻る。14:30古峰神社駐車場着。古峰神社を見学する者、帰りがけに温泉に立ち寄る者などに分れる。天候に恵まれ、のんびりとした山行を楽しむことができた。(秋山担当 石澤好文記)



古峰峠にて



巴の宿にて



三枚岩にて



古峰神社奥の院

第3回「ヒマラヤの集い」講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2011年10月29日(土)15:00~17:05

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

講師：半田好男氏(栃木県立茂木高校教諭)

演 題：「社会貢献の基礎は山にあり

～岳人教師のネパール支援」

参加者：本支部会員20名、コンセーレ関係5名

一般25名、計50名

- 本支部の公益事業として、会場となったコンセーレとの共催で開催した。
- 講師の半田先生は、高校時代に佐野高校山岳部員で、インターハイに出場、優秀校になったこともある。1990年の栃木高体連中国崑崙遠征隊にも参加された岳人である。
- 広報、会場準備、受付、ネパールのカレンダー販売などは内間、稲葉、麦倉の各会員たちが自主的且つ積極的に早くから準備した。半田講師が用意したネパールコーヒーの試飲コーナーでは、ハリヨ・サンティ(佐野市のボランティア団体)の方々4名がネパールの民族衣装を着て、サービスしてくれた。一般参加の人は新聞と口コミで興味を持った方が多い様だった。山とは無縁の海外青年協力隊関係の方も来場していただいた。
- 山野井支部長の挨拶・講師紹介の後、講演会が始まった。ネパールの衣装でネパール語で挨拶する半田講師は日本人には見えなかった。まず、半田講師が勤務する茂木高校の一般の生徒が持つ「山」へのイメージ分析や、ご自身の高校時代、山岳部でインターハイや国体に選手として出場し活躍していた頃のエピソードを話していただいた。当時、高体連の先生方に感銘を受け、教員になろうと決心したことや、社会人山岳会や高体連の海外遠征でリーダーから組織で登山する上で大事なことを学んだと話された。大学時代のお金がなかった時やインドで肝炎になった時、海外青年協力隊員時代、ネパールでの電気、水道のない生活でも、山での経験が役だったと紹介された。最後、識字教室に通う生徒たちの現実について紹介された。信じられない程急峻な段々畑の上まで重い水瓶を運ぶことが、どれだけ大変かがなんとなく実感できた。20年に及ぶ活動に重みを感じ、触発された。
- 5時過ぎからは、恒例の懇親会に突入した。ネパールの蒸留酒を酌み交わしながら、楽しい時間を過ごした。講演会后、懇親会を行った。

第5回役員会・事業委員会

日 時：2011年11月13日(土)13:30~14:40

場 所：コンセーレ内タイムズスクエア

参加者：役員16名中10名

- 山野井支部長の挨拶の後、夏山山行、那須岳クリーンキャンペーン、秋山山行、ヒマラヤの集い等についての報告があった。JAC 晩餐会、三支部合同懇談会の案内もあった。
- ついで秋季講演会、新年会・冬山山行について協議した。

第5回秋季講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2011年11月13日(土)15:00~17:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール

参加者：会員18名、一般23名、計41名

講 師：蓮實淳夫氏(JAC 会員)

演 題：「おくのほそ道の山」

- 15:00 定刻に猿山委員の司会で講演会が開始され、山野井支部長の挨拶、石澤委員の講師紹介後蓮實先生の講演に入る。
- 芭蕉の歩いた「おくのほそ道」全行程を10年の歳月を費やして徒歩で歩き通し、この旅を通し「おくのほそ道」に登場する山を全部登山しようという蓮實先生独自のテーマを設定し、1 富士山(不二の峯)、2 男体山(黒髪山)、3 八溝山、4 磐梯山(会津根)、5 小黒崎山、6 板敷山、7 出羽三山(羽黒山・月山・湯殿山)、8 鳥海山、9 温海岳、10 白山、11 日野山(比那が嵩・雛が嶽・日永嶽・小健山)について、芭蕉の足跡をおって説明された。芭蕉の詠んだ俳句やエピソードを紹介しながらの格調高いものであった。また、実際に登山された時の様子や苦労話も興味深いものであった。最後の日野山だけはまだ登っていないので膝がよくなったら是非共登りたいとのことであった。おくのほそ道に関係する山がたくさん登場し、その山のいくつかはすでに登ったが、まだ登っていない山もあるのでライフワークとしてこれらの山の登ってみたいとのことであった。
- 実際に登山した10山については、先生自ら同人誌に投稿したエッセイを資料としていただいた。また「徒然草」の貴重な復刻版を展示して頂いた。途中10分間の休憩を挟み、2時間にわたる講演は大変興味深く時間があっという間に過ぎてしまった感じである。
- 最後に「おくのほそ道を歩く旅の会」のメンバーから頂いた花束を仲島委員が贈呈し17:00 予定通り

講演会を終了した。



講演会風景



講演会風景



講演会風景

第6回役員会・事業委員会

日 時：2012年1月28日(土)16:00～17:30

場 所：サンレイク青木

参加者：役員 16名中9名

- 山野井支部長の挨拶の後、秋季講演会等の報告があった。三支部合同懇談会の案内もあった。
- ついで冬山山行、2012(平成24)年度行事について協議した。

新年会・冬山山行(日光)

日 時：2012年1月28日(土)～29日(日)

場 所：足尾周辺の山

宿 舎：サンレイク青木

参加者：富弘美術館見学者18名、

新年会参加者19名、冬山参加者18名

山野井、森、沖夫妻、小島、井上、渡邊、山本、牛窪、石澤、仙石、上田、中村、関根、斎藤、長桑野、猿山、早川、石井、鈴木、藤田

1/28(土)：富弘美術館 14:10～15:10…宿舎 15:25…役員会 16:00～17:30…新年会 18:00～20:10

1/29(日)：朝食 7:00、出発 8:00＝＝宿舎 8:20＝＝不死熊橋手前駐車場 9:00、同発 9:50……中尾根十字路 12:00～12:30……十二山根本山神社 12:50……熊鷹山 13:50～14:10……石鴨林道出合 14:34……不死熊橋手前駐車場 15:20、解散 15:40

- 1/28(土)晴れ：桐生駅で山野井支部長、中村・上田さんを猿山さんに、日光駅で藤田さんを小島さんにピックアップしていただき、他のメンバーは自家用車で富弘美術館に集合した。予定より10分ほど遅れて14:10に18名のメンバーが集合した。富弘美術館では、最初に学芸員の方から館内の展示等について簡単に説明して頂き、各自熱心に見学する。15:10

集合写真を撮り、本日の宿舎サンレイク青木に向かう。同着15:25。16:00より役員会を行う。役員以外は新年会までお風呂に入ったりしてゆっくりとくつろぐ。17:30役員会終了。桑野さんが合流し、18:00より新年会を別館大広間で行う。20:10盛会のうちに終了。その後308号室に全員が集合して二次会をおこなう。大いに盛り上がる。

- 1/29(日)晴れ時々雪：7:00にバイキングの朝食をとる。上田さん・鈴木さんが到着、合流。8:00に駐車場に集合し、18名が6台の車に分乗し出発。林道に行くことにするが、途中で雪のため1台がスリップし動けなくなり、先行した2台を残し、8:20宿舎の駐車場に戻り、桐生経由で行くことにする。3台の車が林道経由で不死熊橋手前駐車場に9:00に到着。桐生経由の12名が9:40に不死熊橋手前駐車場に到着して、準備のあと9:50に出発する。中尾根コースをたどり、15分ほど林道を進み、尾根に取りつくところで小休止。10:15出発。杉林を急登すると雪が現れ始める。冬型の気圧配置のため風が強く雪が舞ってくる。途中小休止のあと、中尾根十字路到着12:00。ここで昼食。12:30出発。根本山は登らずまき道に行く。雪が多くなってくるが、踏み跡もあり迷う心配はない。12:50十二山根本山神社到着。10分ほど写真を撮ったりし小休止。なだらかな尾根筋を進み、13:50熊鷹山に到着。頂上には展望台があり晴れていけば日光連山の眺望を楽しめそうであるが、あいにく男体山方面の眺望がきかない。記念写真を撮ったりして14:10頂上をあとにする。雪の急な下りに苦労しながら下り、14:34石鴨林道に出る。林道をひたすら下り、15:20不死熊橋手前駐車場に到着する。雪もあり冬山らしい山行をすることができた。駐車場にて、小島委員の挨拶を頂き、15:40解散する。



富弘美術館にて



サンレイク青木にて。支部長さん、両手に花で嬉しそう！！



熊鷹山山頂にて



十二山神社にて



中尾根十字路手前にて

第3回・三支部合同懇談会

日 時：2012年2月11日(土)～12日(日)

場 所：千葉県南房総市富浦町多田良

『大房岬少年自然の家』

参加者：本支部から山野井、森、渡邊、牛窪、上田、中村6名、千葉支部26名、茨城支部10名…総勢42名

行動概要

2/11(土)：宿舎集合…夕日見学…懇親会
18:30～

2/12(日)：宿舎発8:00…千葉県立館山野鳥の森を見学、同内ふれあい野鳥館多目的ホールにて昼食…その後流れ解散

○2/11(土)：伊豆半島に沈む夕日を全員で見学し、少年自然の家の食堂で懇親会で盛り上がる。

○2/12(日)：館山野鳥の森を散策し、館山名物の「くじら弁当」の昼食をとって解散となった。両日とも天候に恵まれ、海を眺めながらの楽しい2日間であった。来年は茨城支部の担当です。



伊豆半島に沈む夕日の美しさ



参加された皆さんです

支部会員名簿

【2011(平成23)年5月28日現在】

No.	会員番号	氏 名	備 考
1	4146	日下田 實	顧問
2	4255	堀越 利男	
3	4633	山野井 武夫	支部長
4	4661	森 元一	
5	5201	松井 芳隆	
6	5346	沖 允人	監事
7	6189	小島 守夫	委員
8	6956	井上 孝郎	
9	7386	柳澤 隼人	
10	7914	渡邊 雄二	事務局長
11	7973	坂口 三郎	監事
12	8383	前田 洋子	
13	8386	牛窪 光政	
14	8432	前田 文彦	
15	9265	石沢 好文	委員(事業)
16	9267	臼田 徳雄	
17	9307	佐藤 清衛	
18	9350	山本 武志	委員
19	9921	乾 能尚	
20	10416	上田 景子	事業
21	10459	仙石 富英	委員(事業)
22	10885	蓮實 淳夫	自然保護
23	10909	中村 靖弘	
24	11381	関根 和男	
25	11402	渡辺 剛	
26	12503	菱田 克彦	
27	13906	吉田 春彦	
28	14400	梶谷 博	
29	14419	斎藤 隆	
30	14438	神島 仁誓	委員(事業)
31	8282	上野川 孝一	
32	12466	長 百合子	
33	14475	北見 正光	
34	14483	東 和之	自然保護
35	14509	柏村 祐司	
36	14510	桑野 正光	
37	14518	猿山 浩	事業(山)
38	14527	稲葉 昌弘	事業
39	14529	麦倉 常治	事業(山)
40	14536	後藤 尚	事業(山)
41	14626	内間 茂	
42	14646	杉田 茂久	
43	14650	早川 和子	
44	14652	山口 富蔵	
45	14656	石井シモ子	
46	14667	増渕 仁一	
47	14674	船村 徹	
48	14679	仲畠 正子	事業
49	14681	吉澤 照子	
50	14721	鈴木 清一	
51	14914	片柳 洋	
52	14915	片柳 澄子	

平成22(2010)年度 総会の記録

日時：2010(平成22)年5月29日(土)
総会 16:00～【3F会議室】
懇親会 17:00～【1Fタイムズスクエア】
場所：コンセーレ【(財)栃木県青年会館】

◇◇総会次第◇◇

進行：神島 仁誓

- | | | |
|---|----------------------|----------|
| 1 | 開会の言葉 | 小島 守夫 |
| 2 | 支部長挨拶 | 日下田 實 |
| 3 | 議長選出 | 議長：前田 文彦 |
| 4 | 議事 | |
| | (1)平成21年度事業報告について | 渡邊 雄二 |
| | (2)平成21年度決算報告について | 石澤 好文 |
| | (3)監査報告 | 沖 允人 |
| | (4)平成22年度事業計画(案)について | 渡邊雄二 |
| | (5)平成22年度予算(案)について | 石澤 好文 |
| | (6)事業委員会の設置について | 渡邊 雄二 |
| | (7)その他 | |
| 5 | 出席者近況報告(新会員紹介) | |
| 6 | 閉会の言葉 | 山本 武志 |

◇◇懇親会次第◇◇

進行：石澤 好文

- | | | |
|---|--------------|-------------|
| 1 | 開会の言葉 | 石澤 好文 |
| 2 | 支部代表挨拶・激励金贈呈 | 山野井武夫 |
| 3 | 沖隊長挨拶 | 沖 允人 |
| 4 | 乾杯 | 坂口 三郎 |
| | 懇談 | (会員によるスピーチ) |
| 5 | 閉会の言葉 | 石澤 好文 |

※なお議事については、全て原案通り承認されました。

栃木支部役員

支部長	日下田 實(4146)
副支部長	山野井 武夫(4633)
委員	小島 守夫(6189)
	渡邊 雄二(7914)(事務局長)
	前田 文彦(8432)
	石沢 好文(9265)(会計)
	山本 武志(9350)
	神島 仁誓(14438)
会計監事	沖 允人(5346)
	坂口 三郎(7973)

○各委員会委員

支部自然保護委員	蓮實 淳夫(10885)
	東 和之(14483)
山の日プロジェクト委員長	麦倉 常治(14529)
委員	猿山 浩(14518)
委員	後藤 尚(14536)

事業委員会

委員長	麦倉 常治(14529)
委員	前田 文彦(08432)
委員	石澤 好文(09265)
委員	仙石 富英(10459)
委員	神島 仁誓(14438)
委員	猿山 浩(14518)
委員	稲葉 昌弘(14527)
委員	後藤 尚(14536)

本支部の事業を企画、立案、実施するために事業委員会を設置する。委員は支部長が委嘱し、委員の任期は特に定めない。

平成22(2010)年度事業計画

- | | | |
|----|----------------|--------------|
| 1 | 栃木支部報第3号発行 | H22・04・01 |
| 2 | 春山登山 | H22・04・10～11 |
| 3 | 平成22年度総会 | H22・05・29 |
| 4 | 第3回山岳映画の夕べ | H22・06・20 |
| 5 | 日光山系清掃登山 | H22・07・04 |
| 6 | 夏山山行・懇親会 | H22・08・28～29 |
| 7 | 那須岳クリーンキャンペーン | H22・09・05 |
| 8 | 第2回ヒマラヤの集い | H22・10・? |
| 9 | 秋山山行 | H22・10・? |
| 10 | 第4回秋季講演会 | H22・11・? |
| 11 | 三支部合同懇談会 | H23・02・12～13 |
| | (新年会・冬山山行を兼ねる) | |

平成22(2010)年度予算

I 収入 330,000円

(内訳)支部会費 100,000円(@2,000円×50人)
助成金 90,000円(@2,500円×36人)
繰越金 126,218円
雑収入 13,782円

II 支出 330,000円

(内訳)通信費 70,000円(総会、支部通信の郵送費等)
事業費 150,000円(講演会・支部だより等)
会議費 30,000円(総会、集会の会場費等)
消耗品費 50,000円(事務用品等)
予備費 30,000円

III 残 額

0円

平成23(2011)年度

総会の記録

日時：2011(平成23)年5月28日(土)
 総会 16:00～【1F小ホール】
 懇親会 17:00～【2Fバンケットホール】
 場所：コンセーレ【(財)栃木県青年会館】

◇◇総会次第◇◇

進行：神島 仁誓

- 1 開会の言葉 小島 守夫
- 2 支部長挨拶 山野井 武夫
- 3 来賓挨拶 栃木県青年会館事務局長 内間 茂
- 4 議長選出 議長：仙石 富英
- 5 議事

- (1)平成22年度事業報告について 渡邊 雄二
- (2)平成22年度決算報告について 石澤 好文
- (3)監査報告 沖 允人
- (4)平成23年度事業計画(案)について 渡邊雄二
- (5)平成23年度予算(案)について 石澤 好文
- (6)役員の改選について 山野井 武夫
- (7)その他

- 6 出席者近況報告(新会員紹介)
- 7 閉会の言葉 山本 武志

◇◇懇親会次第◇◇

進行：石澤 好文

- 1 開会の言葉 石澤 好文
- 2 顧問挨拶 日下田 實
- 3 乾杯 坂口 三郎
- 懇談 (会員によるスピーチ)
- 4 閉会の言葉 石澤 好文

※なお議事については、全て原案通り承認されました。

栃木支部役員

顧問	日下田 實(4146)
支部長	山野井 武夫(4633)
副支部長	渡邊 雄二(7914)(事務局長)
委員	小島 守夫(6189)
	渡邊 雄二(7914)
	石澤 好文(9265)(会計)
	山本 武志(9350)
	仙石 富英(10459)
	神島 仁誓(14438)
会計監事	沖 允人(5346)
	坂口 三郎(7973)

○各委員会委員

支部自然保護委員 蓮實 淳夫(10885)
 東 和之(14483)

山の日プロジェクト委員長 麦倉 常治(14529)

委員 猿山 浩(14518)

委員 後藤 尚(14536)

事業委員会 委員長 麦倉 常治(14529)

委員 石澤 好文(9265)

委員 上田 景子(10416)

委員 仙石 富英(10459)

委員 神島 仁誓(14438)

委員 猿山 浩(14518)

委員 稲葉 昌弘(14527)

委員 後藤 尚(14536)

委員 仲島 正子(14679)

平成23(2011)年度事業計画

- | | | |
|----|---------------|--------------|
| 1 | 栃木支部報第4号発行 | H23・04・01 |
| 2 | 春山登山 | H23・04・10 |
| 3 | 平成23年度総会 | H23・05・28 |
| 4 | 日光山系清掃登山 | H23・07・03 |
| 5 | 第4回山岳映画の夕べ | H23・07・09 |
| 6 | 夏山山行・懇親会 | H23・08・27～28 |
| 7 | 那須岳クリーンキャンペーン | H23・09・04 |
| 8 | 第3回ヒマラヤの集い | H23・10・? |
| 9 | 秋山山行 | H23・10・? |
| 10 | 第5回秋季講演会 | H23・11・? |
| 11 | 新年会・冬山山行 | H24・01・?～ |
| 12 | 三支部合同懇談会 | H24・02・11～12 |

平成23(2011)年度予算

I 収入 350,000円

(内訳)支部会費 98,000円(@2,000円×49人)
 助成金 115,000円(@2,500円×46人)
 繰越金 131,714円
 雑収入 5,286円

II 支出 350,000円

(内訳)通信費 90,000円(総会、支部通信の郵送費等)
 事業費 160,000円(講演会・支部だより等)
 会議費 40,000円(総会、集会の会場費等)
 消耗品費 30,000円(事務用品等)
 予備費 30,000円

III 残 額 0円

会員からの寄稿文です！

思い出の山～白根山(栃木県最高峰)と海巻山(芳賀郡最高峰)～ 石澤 好文

1 栃木県最高峰 奥白根山(2577.6m)

小学校低学年の頃(記憶は定かではない)だと思うが3月の晴れた日、父の手伝いで裏山に登った。すると白く雪をかぶった山が目飛び込んできた。神々しく輝く山を見て、それが何という山であるかももちろん当時は知る由もなかったが、心の奥底に残っていたことは確かである。将来山に登るとは夢にも思わなかったが、大学時代に山に登りこの時の記憶が蘇った気がする。その山は日光の男体山であることがわかったのは、20歳を過ぎてからである。それからこの日光の山が私の登山原点の山になった。

栃木県に就職し、はじめて気にかかっていた日光の山に登ることができた。それから30年、私が一番多く登った山それが奥白根山である。登った回数はおそらく60～70回で、季節を問わずに登った。

何故日光の数ある山の中で奥白根山にこのように多く登ったかと言うと、県内の最高峰である為である。また、高校生の冬山合宿に最適な山であるためである。最初に冬山合宿を計画したときは、2年生のリーダーと体力のある部員3名で、12月の初旬期末試験終了後に、下見と荷揚げのために奥白根山に行った。しかし降ったばかりの深雪に苦勞し、ところによっては腰までもぐるラッセルを強いられた。五色山まではと思ったが、やっと1日かかって国境平に到着し、引き返した。それ以来、毎年生徒を引率して登っているが、思わぬ大雪で登頂できなかった年、雪が少なく幕営に苦勞した年と何回登っても、印象が違う。

奥白根山は、私にとって、四季を問わず生徒と共に訓練の為に登ったばかりでなく、全国高等学校登山大会や関東高校登山大会、国民体育大会等でもコース調査やコース整備をした山である。

登山の対象となる岩場等は存在しないが、前白根山や五色山から眺めた端正な山容は、五色沼を前景にして秋の紅葉、春の新緑、そして冬と四季折々いずれも美しい山である。今後とも私にとって登り続けたい山である。

2 芳賀郡最高峰 雨巻山(533.3m)

真岡高校の顧問の時には毎年生徒とともに登った山であった。標高こそ533.3mと低い山であるが、芳賀郡内では最高峰である。真岡から自転車に登山口までいける距離でもありトレーニングをかねてよく登った山である。なかでも県境縦走のときは、雨巻山までは登山道も整備されていたが、それから先は道がなく木登りしてルートを探したりと大変苦勞した思い出がある。茂木高校に異動してから気にかかっていたものの訪れる機会がないままに10数年経ってしまった。今年真岡女子高校に異動して久しぶりに7月と2月に登る機会があった。最初は栗生から登ったが山頂付近までは、以前登ったときとあまり変わらず懐かしかった。しかし頂上に着くと道標も立派になり、ベンチも設置され昔の面影はなくなっていた。2月には、大川戸から三登谷山から足尾山まで縦走したが、コースも整備され歩きやすくなっているのには驚かされた。三登谷山からの日光連山の眺望を楽しみながら静かな山行を楽しむことができた。

栃木の山100にも選ばれ中高年登山者が多数訪れていた。このような身近な山を大切に、これからも登り続けたい山の一つである。

国道 400 号を北西の方角に向かい、宇都宮線の跨線橋を越える。上りの勾配がきついので、車のアクセルをちょっと深めに踏み込みこむ。ほどなく跨線橋の頂点に着くと、雪をいただいた山並みが一気に目の前に広がってくる。栃木県の北部から西部にかけての山塊がほぼ一望できる。ここからの眺めがなぜか一番好きだ。同じような景色は、この道路のもう少し手前から、あるいはちょっと下ったところからも見えるのだが、この地点は地上から 10 メートルあまり上っていて視界を遮るものもないので、まさにパノラマ・ビューの醍醐味が味わえる。瞬時のことゆえ凝視することなどできる筈もないのだが、あるいは脳裏の奥底に鮮明に刻み込まれた風景が、重なり合うように映し出されるのかもしれない。

左手には足尾から日光の山々、中央に高原山から塩原の山々、そして右手にはひととき雪化粧が目立つ三倉・大倉・流石などの国境稜線を担う山々、そして噴煙たなびく茶臼など那須の山々。でもそれもほんの一瞬。車は勢いを増して下っていく。ジョギングでここを越えることもあるが、その時には必ず頂点で一度立ち止まって、しばしここからの絶景を楽しんでいる。

大学で山登りを初めて以来、少なからず山に関わる生活をするようになった。なかでも高校に勤務し、宇都宮南高校・大田原高校で山岳部をつくり、顧問として多くの山に登ることができたのは望外の幸せであった。なにしろ部員と山に行くことが仕事になったのだから……。機会に恵まれて海外遠征にも 4 回ほど行かせてもらった。山に行くたびに思い出が一つ二つと増え、いつの間にか多くの山仲間もできていた。どの山にも捨て難い思い出があり、思い返すたびになつかしさがこみあげてくる。だからすべての山の思い出を書きたいというのが本音であるが、それはかなわぬこと、ここでは那須岳の思い出にしばって書いてみたい。

どうして那須岳かって？それはなんと言っても毎日仰ぎ見る故郷の山であり、小・中・高の校歌にも必ず登場するので、なじみ深い山であるからね。それにね、那須岳は宇南でも大高でもホームグラウンドにしていた山だから、新人歓迎合宿・強化合宿・冬山・春山をはじめとしてよく通ったもので、その分だけ思い出もすごく多い山なんだ。思いつくままに書き綴ってみよう。

○スキーをする父親はいつもリュックを背負っていて、そこから首だけ出してお供をしていたのが私で、行き先はきまって那須のスキー場だったね。

○冬山合宿で、予定のテント場までたどりつかず、三斗小屋の大黒屋の庭先をお借りしてテントを張ったことがあった。でも軽い気持ちで残飯を雪中に埋めて戻ったために、春になってそれが露見して、叱責のお手紙をいただいた。でもそのことが縁となって、山岳部員がよく泊めていただいたり、冬や春に温泉にいられていただくようになった。

○春山合宿の出来事。天候に恵まれた年は、大きなイグルーを作って、そこに部員ともども二泊した。二泊三日思う存分雪遊びを楽しんだ。でも天候の悪かった年は、清水平で道がわからなくなり、すーっと引き返して避難小屋から三斗小屋方面に降りて、途中の小屋付近でテントを張ったこともあった。疲労困憊して多くの部員が目には涙を浮かべていたなあ。

○県境縦走の一環として、大峠から流石・大倉・三倉方面を歩いたことがあった。水場がないので、生徒 2 人と私とで合計 20 リットルほどの水を持参しての山行だった。真夏のことで藪こぎで苦労したのを覚えている。途中で水が尽きて、結局沢に降りて敗退したが、その日、稜線から見た日の出の美しさを忘れられない。神々しいまでの美しさとはこういうものか。

○那須で行われた高体連の大会はよく強風に襲われた。掲揚塔にひるがえっていた高体連旗が強風にちぎれて無残な姿になったこともある。また峰の茶屋や牛ヶ首は風がひどくて、大会当日は生徒を一人ひとり顧問が抱きかかえて渡したこともあった。

○私のところの本堂に生徒を宿泊させて、早朝たたき起こしては那須に強化合宿によく出かけた。U 字工事の益子卓郎もよくそんなことで山に行き、山を楽しんでいたものだ。

「山の日」制定にむけて

○本支部としての「山の日」制定にむけての取り組みを紹介しよう。

○2009（平成 21）年に山の日プロジェクト委員会が本支部に設置された。また栃木支部報第 2 号（2009 年 4 月 1 日刊）、第 3 号（2010 年 4 月 1 日刊）の巻頭でも「山の日」制定に向けての提言を掲載している。

○JAC本部HPから、全国の「山の日」設定状況について転載する。

◆◆◆都道府県の「山の日」◆◆◆

秋田…水と緑の月間 7 月

山形…やまがた森の日 6 月第 1 土曜日詳細

栃木…元気な森づくりの日 10 月 16 日

群馬…ぐんま山の日、ぐんま山と森の月間

10 月第 1 日曜日、10 月

千葉…里山の日 5 月 18 日

石川…いしかわの森づくり推進月間 10 月

福井…福井県森づくりの日 6 月第 1 日曜日

山梨…やまなし山の日 8 月 8 日

長野…ふるさとの森林づくり県民運動推進強調月間 10 月

岐阜…ぎふ山の日、ぎふの山に親しむ月間 8 月 8 日、8 月

静岡…富士山の日 2 月 23 日

三重…三重の森林づくり月間 10 月

滋賀…びわ湖水源のりの日、びわ湖水源のりづくり月間 10 月 1 日、10 月

大阪…おおさか「山の日」、山に親しむ推進月間 11 月第 2 土曜日、11 月

兵庫…ひょうご森の日 10 月最終日曜日

奈良…奈良県山の日・川の日 7 月第 3 月曜日

和歌山…紀州・山の日 11 月 7 日

鳥取…とっとり森林月間 10 月

島根…森の誕生日 4 月 29 日

広島…ひろしま「山の日」6 月第 1 日曜日

徳島…四国山の日（徳島独自ではない）11 月 11 日

香川…かがわ 山の日 11 月 11 日

愛媛…えひめ山の日 11 月 11 日

高知…こうち山の日 11 月 11 日

福岡、佐賀、長崎…九州森林（もり）の日 11 月第 2 日曜日

熊本…くまもと森づくり活動の日 11 月第 2 日曜日

大分…九州森林（もり）の日 11 月第 2 日曜日

宮崎…森林づくり推進期間 10 月～11 月

鹿児島…九州森林（もり）の日 11 月第 2 日曜日

◆◆◆都道府県以外の「山の日」◆◆◆

日本アルパインガイド協会…登山の日 10 月 3 日

四国…四国山の日 毎年 11 月 11 日を基準に開催日を

決定（開催県が決定）

山の日制定協議会…山の日 検討中

国土交通省・各都道府県…水の日 水の週間 8 月 1 日、8 月 1～7 日

事務局より

林野庁と木材利用推進中央協議会等…木の日 10 月 8 日

林野庁…木づかい推進月間 10 月

○『栃木支部報』創刊号から第 3 号までは、なんとか総会に間に合わせて発行にこぎつけましたが、第 4 号に関しては、本来なら 2011（平成 23）年 5 月 28 日（土）の総会でお手元にお渡しすべきところ、いっこうに完成せず、とうとう第 5 号との合併号となってしまいました。支部報編集者の不徳の致すところがあります。

○合併号のため、紙面がやたら多くなりました。また個人山行の文・写真、エッセイ等で、会員諸氏のご協力を得て、なんとか発行のはこびとなりました。御礼申し上げます。

○今後とも、個人山行の文・写真、ご自分でこだわって調べていること、新しい企画の提案等々、奮ってご提出下さい。

☆☆☆ あとがき ☆☆☆

- いやはやなんとも、はてさてどうした、ようやく、やっとのことで、瀕死の思いで、支部報第 4 号・第 5 号合併号を発行することができました。
- また、楽しい企画のご提案、山行等の寄稿があればどしどしお寄せください。（カミジマ）

